港湾空港に関する広報業務の取り組みについて

小田　雄大

元　関東地方整備局　東京港湾事務所　総務課　（〒136-0082 東京都江東区新木場1-6-25）

現　関東地方整備局　総務部　人事課　（〒231-8436　神奈川県横浜市中区北仲通5-57 ）

国土交通省では，事業や施策などについて国民のみなさんに幅広く知っていただくとともにみなさんのご意見を聞かせていただく場として，「出前講座」を実施している．さらに港湾関係組織では小学生を対象とした職員による講師派遣授業「港の大研究」を実施している．

また，港湾空港部では若手職員による「若手広報チーム」を発足させ，その具体的な取り組みの1つとして，学生を対象にYouTubeなどのSNSを利用し港湾・空港業務の魅力を伝えている．

本報告では，「港の大研究」と「若手広報チーム」の取り組みの事例を紹介し，その効果や課題の把握など，今後の広報業務に関する考察を行う．

キーワード　港の大研究，若手広報チーム

1.　はじめに

海に囲まれた島国日本では，輸出入貨物の９９．６％が船で運ばれ，港から出入りしており，日本の経済活動を大きく支えている．また，自然災害から陸域及び国民を守るため，防波堤や護岸など整備を行っている．

このような大きな役割を果たす「港湾」の事業や施策などについて，国民のみなさんに幅広く知っていただくとともに，みなさんのご意見を聞かせていただく場として，国土交通省では，職員が講師を務める「出前講座」を実施している．特に，小学生を対象とした出前講座として，国土交通省港湾局が監修した学習教材を各小学校に配布し，職員による講師派遣授業「港の大研究」を実施している．東京港湾事務所では，「港の大研究」として，東京都及び埼玉県の希望する小学校を対象に２０１５年度から講師派遣や現場見学会を実施し，なじみの薄い港湾の業務に少しでも興味をもってもらえるよう啓発活動に取り組んでいる．

また，高校生や大学生を対象とした啓発活動のため，港湾空港部では，採用１～５年目の若手職員で構成される「若手広報チーム」を２０２１年５月に発足した．若手広報チームは，学生のリクルート活動に焦点を置き，港湾・空港の業務に興味を持つ学生の母数拡大を図ることを目的としている．

現在では，１２名の若手職員が参加しており，２つのグループに分かれ，高校生や大学生が求めている情報の追求や興味を引く動画の制作など，港湾・空港の事業や施策などの魅力を若手の視点から伝えるべく，広報活動に取り組んでいる．

本報告では，「港の大研究」と「若手広報チーム」の取り組みの事例を紹介し，その効果や課題の把握など，今後の広報業務に関する考察を行う．

2.「港の大研究」の取り組み

東京港湾事務所では２０２２年度において，下記，２校の小学校に対して講師派遣及び現場見学会を実施した．

・講師派遣
　東京都豊島区立椎名町小学校　実施日１１月１７日
・現場見学会
　東京都豊島区立池袋第三小学校　実施日２月９日

(1)　講師派遣

講師派遣の実施においては，重要となる様々なポイントがある．例えば，授業では１コマ４５分と限られた時間の中で港湾の重要性，魅力を伝えなければならない．このため，資料や教材を淡々と説明するのではなく小学生が理解し興味を持つことができるカリキュラムを構成する必要がある．授業が有意義な時間になるよう，また，港湾の重要性や魅力を余すところなく伝えることができるよう，綿密に授業構成や時間配分についての打合せを行ったうえで実施している．

また，東京港湾事務所では，配布されている教材だけでなく，各小学校の授業進捗具合にあわせた資料内容を独自に構成し，写真やグラフなどを多用して視覚に訴えた資料を作成するなど，様々な工夫点をもうけている，さらに，資料や教材の説明だけでなく，DVD「港のひみつ」を放映しアニメによる親しみやすい内容で想像を促進したりクイズ形式で友達と楽しく考えてもらうことにより，より一層の理解向上を図っている．（図-1）

１１月１７日に実施した豊島区立椎名町小学校では，電子黒板を利用し大画面に資料を映しながら東京港の発展及び現状を説明した．また，輸入品が日本に運ばれてくるまでの映像を流して，どのように貨物が港に関わり，港がどのように物流を支えているかについて説明するなど，港湾の魅力を楽しく伝えることを心がけた．

図-1　「港の大研究」講師派遣 実施風景（写真）

(2) 現場見学会

東京港湾事務所では，現場見学を希望する小学校に対しては，船を利用し海上視察を行っている．港湾事業の役割や整備効果等を幅広く理解してもらうため，授業だけでは感じることのできない港の全体の動きやその大きさを間近で見てもらい，現場を直接実感できる取り組みを行っている．

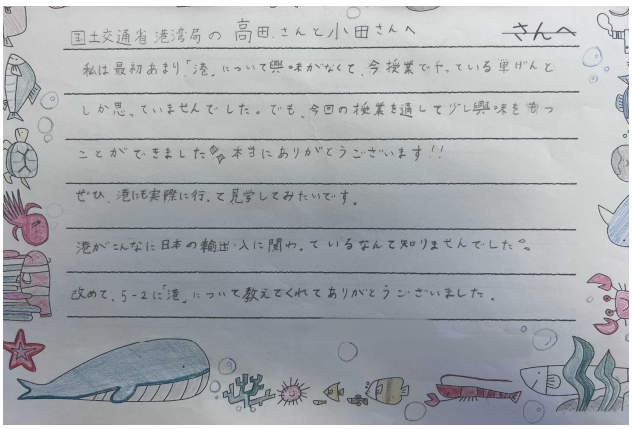
２月９日に実施した豊島区立池袋第三小学校では，風の影響により船が出航できず，残念ながら海上視察ができなかったことから，海上視察に代えて，広報展示室TOKYOミナトリエと東京国際クルーズターミナルの見学に変更し対応した．広報展示室TOKYOミナトリエでは，地上１００ｍから望む眺望を活かして，眼下に広がる稼働中のコンテナ埠頭を見つつ，国際貿易港として東日本の経済や生活を支える東京港の歴史や現在の姿を展示から学んでいただいた．東京国際クルーズターミナルでは，実際に訪れて施設を見ることにより，海上視察とは違う観点から首都東京の新たな海の玄関口を感じてもらうことができた．（図-2）

図-2　「港の大研究」現場見学の様子（写真）

(3)「港の大研究」による成果

ありがたいことに，講師派遣や現場見学会について，後日，お礼の手紙や感想文をいただくことがある．（図-3）

講師派遣を実施した小学校の児童からは「実際に港に行って見学してみたい．」「スライド資料やアニメのおかげで楽しく学べた．」「港は環境や暮らしに重要なことが分かった．」など私たちが目的としている港湾の重要性，魅力を知ってもらうことができ，興味をもってもらうことができている．また，先生からは「現在，子供達が学校で学習している内容も含まれており，とても分かりやすい学習内容でした．」「来年度の５年生に引き継いで行きたいと思います．」など，好評をいただいている．


国土交通省 港湾局の 高田さんと小田さんへ　さんへ
私は最初あまり「港」について興味がなくて、今授業で扱っている単げんとしか思っていませんでした。でも、今回の授業を通して少し興味を持つことができました。本当にありがとうございます!!
ぜひ、港にも実際に行って見学してみたいです。
港がこんなに日本の輸出入に関わっているなんて知りませんでした。
改めて、5-2に「港」について教えてくれてありがとうございました。

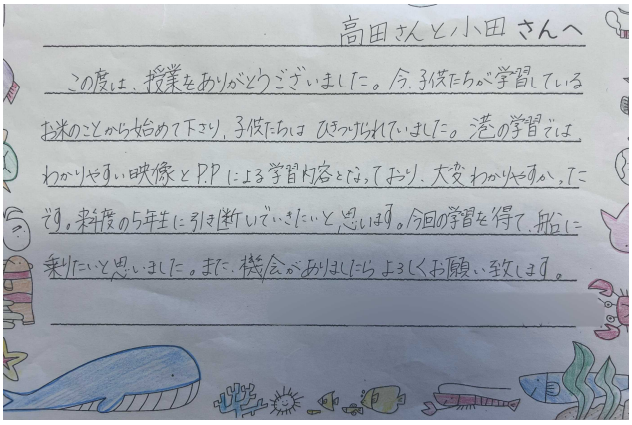

高田さんと小田さんへ
この度は、授業をありがとうございました。今、子供たちが学習しているお米のことから始めて下さり、子供たちはひきつけられていました。港の学習ではわかりやすい映像とPPによる学習内容となっており、大変わかりやすかったです。来年度の5年生に引き継いでいきたいと思います。今回の学習を得て、船に乗りたいと思いました。また、機会がありましたらよろしくお願い致します。

図-3 児童、先生方の感想文

港湾について小学生に分かりやすく説明できているのかなど不安はあるが，沢山のお礼の手紙や感想文が自分の自信へと繋がっている．また，「港の大研究」に取り組むにあたり，事前準備などを通じて港湾・空港について学習し様々な知識を身につけることができるので，自分自身のスキルアップになっている．

3.「若手広報チーム」の取り組み

港湾・空港の業務に興味を持つ学生の母数拡大を図るため，２０２１年度５月に発足した若手広報チームは，６月下旬から行われた個別業務説明会までに間に合うよう短期間の中で，就職活動を行う高校生や大学生に向けた動画の制作に取り組んだ．

この取り組みにあたり，創意工夫や議論した点を以下に記す．

(1) 題材の検討

活動を行うにあたり，AとBの２つのグループに分かれ，それぞれ内容の異なった動画制作に取り組んだ．

Aグループは，高校生や大学生にはなじみの薄い港湾・空港の事業や施策などを広く知ってもらうことだけでなく，事業の壮大さ，仕事に対する熱量・達成感を感じてもらうことを目標として，PR動画の制作に取り組んだ．Bクループは，職場の雰囲気や職員１人１人の具体的な業務に着目し，実際に港湾空港部に採用になり見えた景色や日々の業務について，職員にインタビューする形で動画制作に取り組んだ．

(2) 動画制作

a) Aグループ

Aグループでは，事業や施設を紹介するにあたり，当時の担当職員や事務所から動画制作に必要となる画像などの様々な素材を集めた．制作期間は１ヶ月と短い期間に完成させることを求められていたので，Teamsを活用したWEB会議を繰り返し開催し，通常業務の合間を縫いながら，議論を重ねた．当初は事業や施策をナレーションとして説明する内容の動画であった．しかし，事業のスケールの大きさや仕事に対する熱量・達成感をより一層感じてもらいたいとの思いから，ナレーションによる説明をやめて，壮大なBGMの挿入や工事が完了した喜びが伝わるワンシーンを動画の終盤に差し込むなど，音楽と映像のみのPR動画に変更した．創意工夫した点は，より効率的に効果的な動画を制作するために，１分の動画を６人で制作するのではなく，１０秒程度の動画を１人１つ担当し，６つの動画を１つに繋げることによりPR動画を完成させる方針とした．この方針で制作した場合，より短時間で編集・確認作業を行うことができ，試行錯誤を重ねることでさらに効率よく，より分かりやすい動画を制作することができた．

b) Bグループ

Bグループでは，学生に職場の雰囲気や実際に取り組んでいる業務を分かりやすくイメージできるよう、現場や執務室などで撮影を行った．（図-4）

動画制作にあたり，従来の広報動画とは異なるように，業務に取り組んでいる様子やプライベートの話しなど，職員の日常を切り取った映像や写真を利用し，親しみやすさを重視して制作した．そして，「真面目，堅い，静か」といった公務員のイメージを払拭できるよう，職場のアットホームな雰囲気を伝えられるように取り組んだ．また，職場の雰囲気だけではなく，業務内容や港湾空港部の魅力も伝えるため，事務官，技官と様々なメンバーの業務のやりがいや港湾空港部ならではのエピソードを交えることも心がけた．

動画撮影にあたり，事前申請や使用料が必要になるスポットもあり，保安施設や肖像権などの確認を伴うなど大変な部分もあったが，第二海堡など港湾空港部に所属していないと立ち入ることができない場所や見られない景色を撮影することにより，撮影１つに対しても創意工夫を心がけた．

図-4 インタビュー撮影の風景

(3) SNS活用による広報活動の成果

２０２１年９月１５日からSNSに投稿を始め，２０２３年２月時点で総再生数６８１５回と沢山の方々に視聴いただけている．

リクルート活動においても，YouTubeを見て港湾空港部に興味をもったという声が実際にあり，２０２２年度新規採用職員からは，「官庁訪問や採用面接前にYouTubeに投稿されている動画を視聴した」「具体的な業務内容を知れて，自分が勤めた場合のイメージがしやすかった」など，若手広報チームの活動が確実に学生に

届いていることが感じられた.

また，本業務に取り組むことにより，それぞれの事務所の事業を詳しく知ることができ，さらに，現場に触れる機会が多くあったことから，日常の業務を行う上で大変，身になる機会となった.

図-5 SNSに掲載している動画のサムネイル

6. 今後の課題

(1) 港の大研究

「港の大研究」については，各小学校より御礼とともに来年度にも引き継いでいきたいとの意見もいただき，概ね成功したものと感じているが，改善の余地もまだあることから，新たなカリキュラムの構成を検討している.

a) 事前アンケートの実施

授業を行うに当たり，質問タイムを５分程度実施しているが，質問がとても多く全て答えられない場面が多々ある．そこで小学生達の港の認識や知りたいことなど，事前に把握することが大事だと感じた.

事前にアンケートを実施し，小学生の知りたい港の知識を把握し，資料に落とし込むことで，意欲・関心が上がりより良い授業になると考える.

b) 現場見学会での対応

現場見学会では，長い時間施設を見学することがあり，小学生では集中力の継続が難しく，友達と遊んでしまう子が出てきてしまう傾向がある．そのため，講師派遣で実施していたクイズ形式の問題を見学中でも実施し，答えは実際の施設を見せながら説明することにより，授業中ではイメージしづらいことでも，現場で行うことにより理解向上に繋がり，楽しく学んでもらうことができると考える.

(2) 若手広報チーム

「若手広報チーム」については，SNSを利用し多くの方々に港湾・空港に関する事業や施策，職員の日々の業務や職場の雰囲気を伝えることができたが，目に見えて分かるデータが無く，取り組んだ活動の成果があまり感じることができなかったので，今後はサイトにアクセスすると自動に閲覧者数をカウントするシステムの導入，リクルート活動を行っている学生に向けてアンケートを実施するなど，目に見えて分かる成果を得ていきたい.

また，港湾空港部が開設したTwitterを利用して，定期的に港湾・空港に関する事業や施策の情報をツイートし発信することで，多くの若い世代に魅力を伝えていきたい.

7. おわりに

講師派遣や現場見学会，SNSによる広報活動を行うことで，より多くの人々に港湾・空港業務の魅力を伝えることができた．しかし，様々な課題点，改善の余地が見られるので，引き続き効果的な広報活動を検討していく.また、若者に対しての取り組みを積極的に行っているが，幅広い年代をターゲットに広報活動を実施することも必要であり，その方法や手段を検討することも課題である.

これからも様々な広報活動に取り組み港湾・空港の魅力を伝えていくことによって，関東地方整備局のさらなるプレゼンスの向上を目指していきたい.